

趣味

ライフ



With コロナ

これからの 住宅事情

南海トラフに備え減災を

われています。残念ながら今年も各地域で大雨による土石流などで大きな被害がありました。皆さん口をそろえて「長い人生でこんな経験は初めてだ」と言わ

■緩い耐震基準

地震は、日本にいる以上、避けては通れないものです。私は仕事柄、学

者さんと出会う機会が多いですが、今回

はある地震学者の話を紹介したいと思

います。日本では19

95年の阪神淡路大

震災から27年の間

に、震度7の地震が

6回も起きていま

す。「吉田さん、日

今の建物について疑問に思うことはないですか。20

16年に発生した熊本地震

では、わずか28時間で震度

7が2回、震度6が3回立

て続けたことを、ご存

じですか。極めて緩かった

日本の木造住宅の耐震基準

は「阪神」以降、大幅に見

直されましたが、熊本地震

はその見直し基準をはるかに上回るものでした。日本

には建築基準法があります

「許容心力度計算書」を必要とする時期が来たかと思

います。つまりこれからの耐

震住宅には、しっかりとし

たエビデンスが要求される

時代になるよう願っています。また日本の住宅は25年

から30年で資産価値が0円

になるという話を聞きます

が、このほとんどが耐震性

についての問題なのです。

■家族の命を守る器

確かに一棟一棟、ごに性

能証明書をつけることはコストのかかることですが、

この証明書があることによ

って資産価値が数百万円上

がるのも昨今の現実です。

住宅は家族の命を守る器で

あり、同時に資産なのです。

あまり考えたくないのです

が、この数十年の間には必

ず南海トラフ地震が発生す

る、とも言われます。地震

は避けて通れませんが、減

災はできるのです。家づく

りにおいて設備もデザイン

も大切ですが、一番大切な

のは家族の命なのです。

（一般社団法人「日本の

山の恵みを生かす会」代表

・吉田和弘）

△月1回掲載します▽

よしだ・かずひろ 1995

9年3月、三重

県大台町生ま

れ、愛知県豊山

町在住。40年の

建設関連会社勤務の間、代表

作「スローハウスシリーズ」

など、木造住宅とエネルギー

の関連をテーマに書籍編集・

出版に携わった。昨年、一般

社団法人「日本の山の恵みを

生かす会」を立ち上げ、次世代

の住宅エネルギーについて、

活動の具現化に努めている。

地球規模の気候変動

残暑も幾分か和らぎ、久

しぶりに長良川沿線のドラ

イブに出かけました。河川

では落ち鮎捕獲のための築

場が設営され、多くの家族

連れが秋の味覚を楽しんで

います。さらに山間部へ行

くと稻刈りも終わり、トン

ボが空一面を群舞。日本の

原風景が岐阜県にはしっか

り残っているのだと、安堵

感を覚えました。9月は日

本の至る所で防災訓練が行

われています。

良質な岐阜県材をフルに使った

「耐震等級3」の骨組み(資料写真)

